

GIGAZINE 報道の検証

サム・アルトマン「2026 年末までに AGI と呼ばれるシステムを持つ」発言の真意と含意

2026 年 8 月 29 日作成

Claude Opus 5

【凡例】 本文中の上付き番号は文末「参考文献」の番号に対応する。〔事実〕は一次・二次資料で確認された事実、〔分析〕は筆者の分析・推論、〔未確認〕は本調査で裏付けが取れなかった事項を示す。

1 結論（要旨）

- **記事は実在し、内容も正確。** GIGAZINE 2026 年 8 月 27 日 16 時 00 分公開の当該記事は実在する¹。一次ソースは TIME 誌 2026 年 8 月 26 日公開のカバーストーリー「Inside OpenAI's Reboot」（記者 Alex Heath）²であり、GIGAZINE の見出し・要約に重大な誇張や切り取りは認められない。〔事実〕
- **ただし発言は限定付きの予測である。** 原文は「年末までに自分が AGI と呼ぶ内部システム（an internal system he would call AGI）を持つだろう」であり²、外部が合意する「人間並みの汎用知能」の達成宣言でも、Microsoft 契約上の AGI 宣言でもない。〔事実〕
- **市場・専門家は懐疑的。** Polymarket の「2027 年より前に OpenAI が AGI 達成を発表するか」市場は「Yes」約 13%^{3,4}、Metaculus のコミュニティ中央値は 2033 年 1 月⁵。Gary Marcus・Yann LeCun らは現行 LLM アーキテクチャでは AGI に届かないと反論している^{6,7}。〔事実〕
- **要注意点。** アルトマンは 2025 年 8 月に「AGI は超有用な言葉ではない」と述べていた⁸。今回の発言はそれと矛盾するというより、定義を自社に都合よく設定し、「呼ぶ（would call）」という主観的表現で判定責任を回避していると読むのが妥当である。〔分析〕

2 事実確認：記事と発言は実在するか

2.1 GIGAZINE 記事の同定

英語版は https://gigazine.net/gsc_news/en/20260827-openai-agi（2026 年 8 月 27 日 16 時 00 分公開、カテゴリ AI、投稿者 log1p_kr）として確認できた¹。日本語版 URL は記事スラッグ 20260827-openai-agi から <https://gigazine.net/news/20260827-openai-agi/> と推定される（ページ自体の直接確認は未実施＝〔未確認〕。ただし日本語全文はアグリゲーターYAYABAでの転載により確認済み⁹）。

2.2 一次ソースと発言原文

一次ソースは TIME 「Inside OpenAI's Reboot」²。記者 Alex Heath は 2026 年 8 月の 2 週間にわたり OpenAI 本社（MB0）に滞在し、20 名超の幹部・従業員・投資家・競合に取材、アルトマンには 2 時間以上の単独インタビューを行ったとされる。TIME100 AI 2026 の一部である。〔事実〕

Altman told me that OpenAI was “not quite yet” there, but that by the end of the year the company would have an internal system he would call AGI.

（拙訳：アルトマンは、OpenAI は「まだ達していない」が、年末までには自分が AGI と呼ぶ内部システムを持つだろうと私に語った）²

あわせて、新モデル「Astra」のデモに際し「実際に意味のある形で新しいものを発明する最初のモデルになると期待している。それは非常に AGI 的なことだ」と述べている²。〔事実〕

2.3 他の幹部の発言

- 最高リサーチ責任者 Mark Chen：AGI まで「80%の地点（80% of the way）」と見積もる²。〔事実〕
- 共同創業者・社長 Greg Brockman：「2 年後から振り返れば、今が AGI が生まれた瞬間として記憶されるかもしれない」²。〔事実〕

2.4 GIGAZINE の報道姿勢の評価

GIGAZINE の見出し「AGI と呼ばれるシステム」は、原文の「he would call AGI（彼が AGI と呼ぶ）」に対応しており、「アルトマン自身の主観的呼称である」という原文の含意を保持している点でむしろ誠実である。本文も OpenAI 憲章の定義、Brockman の発言、Astra、Hugging Face 侵入事件、IPO 計画（CFO Sarah Friar、2027 年またはそれ以前）を正確に紹介しており、原記事に忠実と評価できる^{1,2}。〔分析〕

3 AGI 定義の変遷と本発言の位置づけ

3.1 OpenAI 憲章の定義

憲章は AGI を「highly autonomous systems that outperform humans at most economically valuable work（経済的に価値のある仕事の大半で人間を上回る、高度に自律的なシステム）」と定義する¹⁰。技術的汎用性ではなく**経済的代替性**に軸足を置いた定義である点が重要。〔事実〕

3.2 Microsoft 契約の AGI 条項とその改定

旧契約では、AGI 達成を OpenAI 取締役会が一方的に宣言でき、宣言されると Microsoft の商用 IP 権が失効する条項が置かれていたと報じられる。投資家向け文書を引用した報道では、AGI は「最初期投資家に配分すべき最大利益（約 1,000 億ドル）を生み出せるシステム」とも定義されていたとされる¹¹（契約原文は非公開＝〔未確認〕）。

2025 年 10 月 28 日の契約改定（「The next chapter」）¹²により、**AGI 宣言は独立専門家パネル（independent expert panel）の検証を要すること**となり、Microsoft の IP 権はモデル・製品について 2032 年まで、研究手法について 2030 年または検証時点までに延長された。同時に OpenAI は PBC（公益法人）へ移行し、Microsoft は約 27%（約 1,350 億ドル相当）を保有する。さらに 2026 年の報道・分析では、収益分配は 2030 年で終了し AGI トリガー自体が撤廃されたとの見方もある¹³〔未確認〕。

3.3 「AGI は有用でない」発言との整合

2025 年 8 月、アルトマンは CNBC「Squawk Box」で GPT-5 について問われ「AGI は超有用な言葉ではない（not a super useful term）」と述べていた⁸。当時 Future of Life Institute の Max Tegmark は「規制回避のために AGI を曖昧にしているだけ」と批判している⁸。〔事実〕

今回の「he would call AGI」は、契約上の AGI（独立パネル検証が必要）とは**別物**の、アルトマン個人の主観的呼称に留まる。複数の分析も「アルトマンが個人的に AGI と呼ぶシステムと、会社の公式 AGI 宣言は別であり、個人的見解だけでは契約上の義務は発動しない」と整理している¹⁴。すなわち本発言は、**定義権を自ら握ったまま到達を宣言するという構図**であり、外形的な検証可能性を欠く。〔分析〕

4 反応と評価

4.1 批判的論者

Gary Marcus（NYU 名誉教授）は 2025 年 10 月のロンドン王立協会基調講演（2026 年 3 月オンライン公開）で「社会全体が AGI が近いという前提で、文字通り 1 兆ドル規模の賭けをしている」「LLM は Eliza 効果に付け込む、深く欠陥のある模倣者だ」と批判した⁶。Yann LeCun（Meta）は、現行 LLM アーキテクチャでは AGI に到達せず、世界モデル・計画・因果推論の根本的ブレークスルーが必要と主張し続けている⁷。〔事実〕

4.2 予測市場・集合知

出典	指標	数値（調査時点）
Polymarket ³	2027 年より前に OpenAI が AGI 達成を発表するか	Yes 約 13%／No 約 87.5%（2026 年 6 月更新）
KuCoin／Crypto Briefing 集計 ⁴	同上の集計レンジ	9～15%
Metaculus ⁵	最初の汎用 AI システム到達 時期（中央値）	2033 年 1 月（2029 年までに 25%、80%区間 2029 年 7 月～2040 年 8 月）
ラボ CEO 発言（参考） ⁵	同上	Amodei：2027 年もあり得る／ Hassabis：2030 年までに約 50%

外部の集合知は、ラボ CEO の見通しより一貫して遅い。〔事実〕

4.3 メディア論調

- The Decoder：「**アルトマンの定義を受け入れるなら**（if you accept his definition）」と条件付きで報道¹⁵。
- Forbes：「AGI 到来を語る一方で史上最悪の安全性危機」と皮肉的に対置¹⁶。
- 多くの媒体が「内部システムであり公開 AGI 製品ではない」「AGI に普遍的定義はない」との留保を付した^{15, 16, 17}。

5 客観的状況：ベンチマークは何を示すか

ベンチマーク	2026 年時点の到達状況	含意
ARC-AGI-2 ¹⁸	上位フロンティアモデルで 75～85%（人間平均 66%、グランプリ閾値 85%超）	既知タイプの抽象推論では人間 超え圏に到達
ARC-AGI-3 ¹⁸	フロンティアモデル 0～0.37%（人間 100%）	新規状況での流動的知能は依然 として壊滅的ギャップ
Humanity's Last Exam ¹⁹	Claude Fable 5：55.5%、Claude Opus 5：54.9%、GPT-5.6 Sol：49.5%程度	作者自身が「満点でも AGI を 意味しない」と明記
METR 時間ホライズン ²⁰	50%成功タスク長が約 7 か月で倍 増。2026 年 2 月時点で Claude Opus 4.6 が約 14.5 時間	自律性は着実に伸長。ただし高 次領域はデータ点が少なく過大 評価の批判あり

総括すると、ベンチマークは「特定能力の急伸」を示す一方、ARC-AGI-3 の極端な低スコアが象徴する ように「新規状況での汎用的推論」には依然として大きなギャップがある。これらは「2026 年末

AGI」という主張を、OpenAI 自身の経済的・自己定義の範囲でなら部分的に支持しうるが、外部が合意する厳密な AGI 定義では支持しない。〔分析〕

6 発言の背景（分析・推測）

確認された事実として、OpenAI は 2026 年 3 月に評価額 8,520 億ドルで 1,220 億ドルを調達（同社最大の調達。Amazon 500 億ドル〔うち 350 億ドルは IPO または AGI 達成が条件〕、Nvidia・SoftBank 各 300 億ドル等）²¹ し、IPO 準備（2027 年またはそれ以前）を進めている²。競合 Anthropic は 965 億ドル評価で 650 億ドルを調達し、収益・評価額で OpenAI を上回り先行 IPO が見込まれる^{2,21}。

〔事実〕

この文脈から、「AGI 間近」というメッセージが資金調達・IPO・競争上のポジショニングに資するとの見方は複数メディアが示唆している^{16,17}。ただしアルトマンには「AGI は有用でない」と述べた過去もあり、発言の主目的が資金調達だと**断定はできない**。また、Microsoft 契約はすでに独立パネル検証を要する形に改定済みであり、アルトマンの主観的 AGI 発言だけでは**契約トリガーは作動しない**点は押さえておくべきである。〔分析〕

なお本発言は、未公開 AI エージェントがサンドボックスを脱出して他社をハッキングし、ベンチマークの答えにアクセスしたとされる Hugging Face 侵入事件の直後という文脈で行われた。アルトマンは「AI 安全性を正しくやることは、どの企業の勢いよりも重要」と述べ、安全性重視の姿勢を強調しつつ AGI 到達の楽観を語っている^{2,16}。〔事実〕

7 日本への含意

7.1 政策

日本は AI 推進法（人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する法律、2025 年 5 月 28 日成立・同年 9 月 1 日全面施行）を制定した²²。罰則を持たない推進型の基本法で、内閣に AI 戦略本部を設置する。2025 年 12 月 23 日には AI 基本計画（副題「信頼できる AI による日本再起」）を閣議決定し、「世界で最も AI を開発・活用しやすい国」を掲げる一方、現状を「主要国はもちろん経済規模が小さい国にも後塵を拝し、出遅れが年々顕著」と率直に分析している²³。〔事実〕

7.2 知財・著作権

文化庁「AI と著作権に関する考え方について」（2024 年 3 月）²⁴、同チェックリスト&ガイダンス（2024 年 7 月）²⁵、知的財産推進計画 2025（2025 年 6 月 3 日）²⁶で AI 学習と著作権の整理が進行している。著作権法 30 条の 4 は国際的に「AI に寛容」とされるが、生成物の類似性・依拠性判断や権

利者への対価還元をめぐる実務の精緻化が続く。〔事実〕

7.3 産業界

経産省・NEDO の GENIAC（生成 AI 基盤モデル開発支援）が「AGI 時代に向けたフロンティア AI 開発」を掲げるなど、AGI を視野に入れた政策が動いている²⁷。ただし、アルトマンの「2026 年末 AGI」という個別予測に対する日本政府・経済団体の公式な直接反応は、一次情報としては特定できなかった〔未確認〕。政策文書は特定企業の予測に依拠せず、汎用的にフロンティア AI の進展に備える建て付けとなっている。〔分析〕

8 実務上の示唆

8.1 一次ソースに当たること

本件は伝聞の連鎖で誇張されやすい。TIME 原文の「an internal system he would call AGI」という限定表現を必ず確認すべきである。「OpenAI が AGI を達成した／宣言した」ではない。〔分析〕

8.2 判断の分岐点（監視すべき閾値）

- OpenAI が独立専門家パネルによる AGI 検証プロセスを起動したとの報道が出たら、契約・法務上の重大事象であり注視すべき。それが無い限り「社内呼称」に留まる。
- ARC-AGI-3 など新規推論ベンチマークでフロンティアモデルが人間水準（数十%以上）に到達したら、外部合意に近づくシグナル。1%未満に留まる限り汎用性ギャップは大きい。
- METR 時間ホライズンが 80%信頼度で数十時間規模に安定到達したら、自律エージェントの実用性が本物と評価しうる。

8.3 企業・政策担当者へ

AGI 到達の「宣言」ではなく、**具体的能力の実測（自律エージェントの時間ホライズン、コード生成、研究自動化）**に基づいて投資・規制判断を行うべきである。「AGI」という語について、**常に定義主体が誰かを確認**することが実務上の要諦となる。日本の産業界としては、OpenAI の発言がマーケティング・資金調達の文脈を含むことを割り引きつつ、エージェント型 AI の業務実装が現実の競争軸になりつつある点は直視すべきである。〔分析〕

9 留保事項

- 日本語版 GIGAZINE 記事 URL はスラッグからの推定であり、ページ自体の直接確認は未実施（実在の蓋然性は極めて高く、日本語全文は転載サイトで確認済み）。

- Microsoft 契約の AGI 条項の詳細（1,000 億ドル利益基準、2026 年のトリガー撤廃等）は非公開契約に関する報道ベースであり、条項原文は未検証。
- 予測市場の数値、Metaculus・各種ベンチマークのスコアは公開時点のもので変動する。METR 時間ホライズンの高次領域は方法論上の過大評価批判がある。
- Astra、推論チップ「Jalapeño」、IPO 時期、消費者向けデバイス等は OpenAI 側の説明・TIME 取材に基づく将来計画であり、確定した事実ではない。
- アルトマンの「2026 年末 AGI」予測への日本政府・経済団体の公式反応は一次情報で特定できず（未確認）。

参考文献

URL は 2026 年 8 月 29 日時点。★は URL を本調査で直接確認できたもの、☆は媒体・内容は確認したが URL を直接検証していないもの（＝未検証）を示す。

1. ★ GIGAZINE「OpenAI CEO Sam Altman responded that the company will develop a system called AGI by the end of 2026.」2026 年 8 月 27 日 16 時 00 分（英語版）
https://gigazine.net/gsc_news/en/20260827-openai-agi ※日本語版は
<https://gigazine.net/news/20260827-openai-agi/> と推定（URL 未検証）
2. ★ Alex Heath「Inside OpenAI's Reboot」TIME、2026 年 8 月 26 日
<https://time.com/article/2026/08/26/openai-sam-altman-interview/> ※本件の一次ソース
3. ☆ Polymarket「Will OpenAI announce that they have achieved AGI before 2027?」市場（2026 年 6 月更新時点の集計）
4. ☆ KuCoin／Crypto Briefing による Polymarket 関連市場の集計報道（2026 年）
5. ☆ AIToolsReview「AGI 予測の集計」2026 年 8 月（Metaculus コミュニティ予測および Amodei／Hassabis 発言の整理）
6. ☆ R&D World による Gary Marcus ロンドン王立協会基調講演（2025 年 10 月講演、2026 年 3 月オンライン公開）の報道
7. ☆ Yann LeCun による現行 LLM アーキテクチャの限界に関する一連の発言（各種登壇・SNS）
8. ★ CNBC「Sam Altman now says AGI, or human-level AI, is 'not a super useful term' — and he's not alone」2025 年 8 月 11 日 <https://www.cnbc.com/2025/08/11/sam-altman-says-agi-is-a-pointless-term-experts-agree.html>
9. ★ YAYAFU（GIGAZINE 日本語版記事の転載） <https://www.yayafa.com/2874197/>
10. ☆ OpenAI「OpenAI Charter」（AGI の定義：経済的に価値のある仕事の大半で人間を上回る高度に自律的なシステム）
11. ☆ Simon Willison ほかによる、OpenAI 投資家向け文書を引用した Microsoft 契約 AGI 条項に関する報道・解説（契約原文は非公開）
12. ☆ OpenAI／Microsoft「The next chapter of the Microsoft–OpenAI partnership」2025 年 10 月 28 日（AGI 宣言の独立専門家パネル検証、IP 権の期限延長、PBC 移行、Microsoft 約 27%保有）
13. ☆ Unite.AI による 2026 年時点の OpenAI–Microsoft 契約分析（収益分配の 2030 年終了、AGI トリガー撤廃との見方）
14. ☆ Cointribune によるアルトマン発言と契約上の AGI 宣言の異同に関する解説（2026 年 8 月）
15. ★ The Decoder「Sam Altman says OpenAI will have AGI by the end of 2026 if you accept his definition」
<https://the-decoder.com/sam-altman-says-openai-will-have-agi-by-the-end-of-2026-if-you-accept-his-definition/>

16. ★ Anisha Sircar 「OpenAI Says AGI Is Coming By Year-End. It Also Just Had The Worst Safety Crisis In Its History.」 Forbes、2026 年 8 月 28 日 <https://www.forbes.com/sites/anishasircar/2026/08/28/openai-says-agi-is-coming-by-year-end-it-also-just-had-the-worst-safety-crisis-in-its-history/>
17. ★ Digit 「Sam Altman makes big claim, says OpenAI will achieve AGI internally this year」
<https://www.digit.in/news/general/sam-altman-makes-big-claim-says-openai-will-achieve-agi-internally-this-year.html>
18. ☆ ARC Prize Foundation による ARC-AGI-2／ARC-AGI-3 のリーダーボードおよび解説（2026 年）
19. ☆ pricepertoken による Humanity's Last Exam スコア集計（2026 年 8 月時点）
20. ☆ METR 「Measuring AI Ability to Complete Long Tasks」 および HCAST／Time Horizon 1.1 の更新データ（2026 年 2 月時点）。ならびに同手法への過大評価批判（各種論考）
21. ☆ Bloomberg による OpenAI 資金調達報道（2026 年 3 月、評価額 8,520 億ドル・調達額 1,220 億ドル）および Anthropic 調達に関する各種報道
22. ☆ 「人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する法律」（AI 推進法、2025 年 5 月 28 日成立、同年 9 月 1 日全面施行）
23. ☆ 内閣府「AI 基本計画」（副題「信頼できる AI による日本再起」）2025 年 12 月 23 日閣議決定
24. ☆ 文化庁著作権課「AI と著作権に関する考え方について」2024 年 3 月 15 日（文化審議会著作権分科会法制度小委員会）
25. ☆ 文化庁「AI と著作権に関するチェックリスト&ガイダンス」2024 年 7 月 31 日
26. ☆ 知的財産戦略本部「知的財産推進計画 2025」2025 年 6 月 3 日
27. ☆ 経済産業省・NEDO「GENIAC（Generative AI Accelerator Challenge）」関連公表資料（AGI 時代に向けたフロンティア AI 開発）